

平成 29 年度「立正大学研究推進・地域連携センター支援費」研究成果報告書

1. 種目 第 2 種

2. 研究課題名 当事者研究と哲学対話によるものづくり研究

3. 研究代表者

研究代表者名		所属部局名	職名
たさか	さつき	文学部哲学科	教授
田坂	さつき		

4. 連携研究者

連携研究者名		所属部局名	職名
なり	はるみ	社会福祉法人訪問の家	理事長
名里	晴美		
いまい	けいじ	NPO法人 ICT救助隊	理事長
今井	啓二		
きむら	ひろゆき	湘南工科大学	専任講師
木村	広幸		

5. 研究実績の概要

当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、申請書に記載した「研究目的」、「研究計画・方法」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述して下さい。

平成30年度福祉ものづくり製作品は、29年度センター支援費2種の助成を受けてITP-SLで製作したALS患者特有の肢体の違和感を軽減するマッサージ機「ひとごち」の改良、重度の障がい者のための楽器製作。製作については、湘南工科大学の木村研究室の協力を得て、製作指導はALS技術ピアサポータ久住純司氏に依頼し、ALS患者や社会福祉法人訪問の家、NPO法人ICT救助隊にも協力を求めた。本年度は、社会福祉法人訪問の家とNPO法人ICT救助隊、湘南工科大学協定（覚書）締結してから、以下の通り活動した。

6月17日（日）にNPO法人ICT救助隊と共催で、第二回ALS患者から聞こう「自分をプレゼン」を立正大学で実施した。6名のALS患者とその支援者が25分ずつプレゼンして、質疑に応答した。

9月4日には、福祉ものづくりシンポジウム@桂台 立正大学と社会福祉法人「訪問の家」共催

訪問の家のメンバーが使用している福祉ものづくり機器の利用体験を中心に、重い障害があるメンバー3名が、自分をプレゼンする。最後に「ものづくりカフェ」を開催して、桂台地区で福祉ものづくりボランティアのネットワークを構築することを目指した。

10月13日「ALS患者さんから聞く 自分をプレゼン」@大阪 立正大学文学部哲学科大阪大学臨床哲学研究室主催 於：大阪大学。ALS夏合宿と同時開催し、「ひとごち」の技術指導をお願いしているALS近畿ブロック技術ピアサポータ久住純司さんと「ひとごち」モニターをしていただいている和歌山のALS協会会員（患者）林静哉さんをお招きし、学生はお二人のプレゼンを聞いて「ひとごち」製作の中間報告をする。その後モニタリングを対面で行いつつ、久住氏から技術指導を受けた。

11月8日、12月20日、1月10日には、立正大学に訪問の家「朋第二」のメンバーさんやALS患者を招き、「重症心身障害者、ALS患者さんに聞こう」という公開講演会を開催した。また11月30日には、佐久間新さんを訪問の家「朋」と十愛療育会「港南」にお招きして、身体表現のワークショップを行った。

3月10日にALS技術ピアサポータ久住純司さんと和歌山のALS協会会員（患者）林静哉さん宅を訪問し、10日には大阪大学で身体表現のワークショップに学生と参加した。

3月15日には、福祉ものづくり報告会@桂台を開催した。同報告会は毎年実施しているが、今年度は訪問の家の事業所利用者の親と地域のボランティアも招いて報告した。

6. 研究発表（平成 29 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ 2 ）件    うち査読付論文 計（ 2 ）件    いずれも執筆予定

著者名	論文標題				
木村広幸 田坂さつき	PBL型「福祉ものづくり」の取り組み（デザイン思考と地域連携）、				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
日本設計工学会2018年度秋季大会研究発表講演会講演 論文集	無	191-192	2   0   1   9		

著者名	論文標題				
田坂さつき	ゲノム編集の倫理問題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
立正大学人文科学研究所年報	有り	56号	2   0   1   9	1-15	

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	

〔学会発表〕 計（ 1 ）件    うち招待講演 計（ ）件

発表者名	発表標題		
田坂さつき	ゲノム編集の倫理問題		
学会等名	発表年月日	発表場所	
日本学術会議シンポジウム	2018年11月23日	日本学術会議	

〔図書〕 計（ ）件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	

研究補助を受けた方は、「研究成果報告書」を提出していただき、ホームページ等で研究成果を公開いたします。研究成果が公開できない事情がある場合には、その理由を記述して下さい。

※研究成果を公開できない理由

--